

令和2年度は、4地域に対し、以下の4名の地域活性化伝道師を派遣した。

※「所属」は令和3年3月31日現在のもの。

圏域	No.	派遣先・相談主体	伝道師名	所属・肩書
中部圏 北陸・	1	愛知県蒲郡市	藤崎 慎一	株式会社 地域活性プランニング 代表取締役
	2	長野県豊丘村	越護 啓子	杉野服飾大学 商品開発論非常勤講師
近畿圏	3	兵庫県豊岡市	田中 淳一	一般社団法人ローカルソリューションズ 代表理事
	4	京都府京丹波町	吉澤 武彦	一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事

※地域活性化伝道師の詳細なプロフィールは、当推進事務局のホームページをご参照ください。

地方創生推進事務局>施策>地域活性化伝道師

<https://www.chisou.go.jp/tiiki/ouentai.html>

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	ロケツーリズムによる効果的な情報発信（シティプロモーション）	相談主体	愛知県蒲郡市
派遣伝道師	藤崎 慎一	ブロック名	北陸・中部ブロック
相談内容	<p>「ロケツーリズムによる効果的なシティプロモーション」をテーマとし、映画「ゾッキ」によるロケツーリズムとご当地グルメなどの観光資源を活用した効果的なプロモーション戦略のほか、新たな地域の魅力を発見し、発信する。それらを活用して地域を元気にする方策を市政に生かしていくため、ロケツーリズム地域活性化伝道師をお招きし、全国各地における事例や本市における効果的な発信方法等について、講演していただくもの。</p>		
相談への対応内容	<p>○藤崎伝道師による講演（～コロナ禍での地方創生のカギがここに～ロケツーリズムによる効果的なシティプロモーション） 令和2年10月14日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光商工関係者や市職員等約50人が参加 ・ロケツーリズムに取り組んでいる全国各地の事例の紹介 ・コロナ禍におけるロケツーリズムの効果的な取り組み事例の紹介 ・ロケツーリズムの権利処理等について、必要なツール、組織体制の説明 <p>○市長及び市の幹部職員との意見交換会において、ロケツーリズムに対する取り組み方や組織体制づくりについて方向性を確認した。</p> <p>○事務局としても課題を共有し今後の支援につなげていくため、出前コンシェルジュとして事務局担当者を派遣。講演会及び意見交換会にて情報共有を図った。</p>		
成果	<p>○藤崎伝道師が関係した具体的な取り組み事例、ロケ地を観光につなげる手法を紹介いただき、ロケ期間中だけでなく、ロケ終了後の継続的な地域振興の可能性を確認できた。</p> <p>○幹部職員において、地域活性化の手法としてロケツーリズムの有用性の意識共有が図れた。</p> <p>○官民一体の組織の中核となる観光商工関係者のロケツーリズムに対する機運を盛り上げることができた。</p>		
課題	<p>○ロケツーリズムが目指すものは、観光客⇒経済効果⇒移住者というピラミッド形である。蒲郡市は、観光地でありながら観光客や宿泊者数は年々減少傾向にあり、一過性ではない地域資源の活用と情報発信が必要である。</p> <p>○行政だけでは、地域活性化に繋げることは不可能であり、今後は、官民一体の組織づくりが必要である。</p>		
今後の方針	<p>○本年2月にオール蒲郡ロケで制作された映画ゾッキについて、ロケ地マップなどを活用し、効果的な情報発信を行うことで蒲郡への誘客を図り、観光客の増加につなげる。</p> <p>○官民で協力してロケの誘致、現場対応を行っているところであるが、さらに推進するため、一体となった組織作りに取り組む。</p> <p>○今年度、蒲郡市シティセールス基本方針を定めるため、官民のメンバーにより会議を重ねているところであり、この基本方針の中の大きな柱として「ロケツーリズム事業」を据えて、官民一体で取り組む。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	観光・交流	相談主体	長野県豊丘村
派遣伝道師	越護 啓子	ブロック名	北陸・中部ブロック
相談内容	<p>依頼日：令和2年10月9日（金）</p> <p>豊丘村では、当村観光について、地域全体を活性化する方法として、地域が主体となり、自然、文化、歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を活かすことによって、交流を振興し、活力あふれるまちを実現する「観光まちづくり」の構築とアフターコロナ期を見据えた新たな観光の展開を見出すことを目的に、地域住民による「豊丘村観光戦略策定委員会」を組織し、本年12月までに「豊丘村観光戦略」を策定する予定である。</p> <p>しかしながら、豊丘村はこれまで観光事業への取り組みが弱く、国内の観光を取り巻く状況や観光事業の知識、経験が乏しいため、今回、この戦略を策定するにあたり、地域活性化伝道師様の専門的な見地から指導助言をご教示いただく。</p>		
相談への対応内容	<ul style="list-style-type: none"> ・村職員への指導助言：17時30分～19時00分 ・策定委員への基調講演：19時00分～20時30分 <p>観光戦略策定委員及び豊丘村観光担当職員に対して、地域活性化伝道師様の広い見地と専門的な知識から基調講演（指導助言）をいただき、当該委員、職員の知識と意識の向上と地域における観光事業の進むべき方向性をご教示いただく。事務局としても課題を共有し今後の支援につなげていくため、出前コンシェルジュとして事務局担当者を派遣した。</p>		
成果	<p>地域活性化伝道師様から、高知県佐川町の「地乳」事業など、地域資源を活用し成功した取り組み事例をご紹介いただいた。その中から、脈々と受け継がれる地域に根差した資源を住民が再認識すること、その資源を戦略的にブラッシュアップし観光事業に育て上げることを全体で確認した。また、地域住民を観光事業に巻き込むことによる、住民の郷土への愛着や誇りの醸成をすることと、これからの観光は、地域の課題を解決するための地域づくりの手段であることを確認した。</p>		
課題	<p>これから、本格的に策定作業に入るが、地域の住民が当たり前だと思っていることが、外部から見れば魅力的な資源であったりすることから、地域住民で組織する策定委員、村職員で有効な地域資源を見出し、戦略的にブラッシュアップする方向性を見出せるかが課題と考える。</p> <p>また、アフターコロナ期を見据えた観光事業戦略の策定については、コロナウイルス感染症の今後の影響や全く新しい取り組み（例えば、三密を避けられることでニーズが高まっているアウトドアアクティビティ等）を視野に入れての組み立てが必要であり、観光に対する広い知見と経験が求められる。</p>		
今後の方針	<p>今後、継続的に策定委員会を開催し、予定通り本年12月を目途に「豊丘村観光戦略」を策定する予定である。</p> <p>さらに、その戦略を具現化するために、中心的な組織「豊丘村観光推進協議会（仮称）」を令和3年3月までに立ち上げ、その運営も実施する予定である。</p> <p>上記の課題を認識し、これら事業を取り組んでいく上では、今回のような地域活性化伝道師の専門的な知見が不可欠であり、今後も継続的な指導助言をいただくよう考えている。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略の策定	相談主体	兵庫県豊岡市
派遣伝道師	田中 淳一	ブロック名	近畿ブロック
相談内容	<p>豊岡市は、まず、職場のジェンダーギャップを解消するため、2019年1月に豊岡市ワークイノベーション戦略(市内事業所対象)を策定した。</p> <p>2019年度には、現状調査、先進事例視察(長野県川上村)、学識経験者からの意見聴取などを行った。そして2020年4月に豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略会議を設置し、2021年3月に同戦略(職場に加え、地域、家庭等を含めた戦略)を策定する予定である。</p> <p>豊岡市の財政状況を踏まえると、多額の投資はできない。豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略は、「低コストで成果を出せる」戦略にする必要がある。</p> <p>田中淳一氏は、長野県川上村におけるジェンダーギャップ解消の取組みを主導され、マーケティングやIT関係にも明るい。同氏から、川上村での取組みの経験などを活かし、豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略における具体的手段やその進め方に関し、ご意見をいただきたい。</p> <p>また、田中氏から、川上村での取組みによる村の変化、村へのメリット等やそれを支援した村民の行動等を具体的にお示しいただくことで、戦略会議に出席する商工会議所会頭などをジェンダーギャップ解消に取り組む地域リーダーとして育成したい。</p>		
相談への対応内容	<p>豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略会議を2020年9月23日から12月16日までの間で3回開催を予定している。</p> <p>この会議では、委員自身が、ジェンダーギャップの解消を自分ごととして捉え、意識変革を伴うプロセスをとりながら、地域に根差した未来志向の戦略案を検討する。そして、委員には、戦略の推進役となってもらいたい。</p> <p>第1回会議を9月23日(水)に開催し、無意識のバイアスに気づくワークの実施や、戦略の目指す姿と実現に向けた手段などの意見出しのためのワークショップを実施した。</p> <p>地方分散が進み、科学技術(AI・IT)を活用した未来の社会シナリオの検討にあたり、科学技術の活用によりもたらされる事例や変化(家事、育児、介護への活用、リモートによる場所を選ばない働き方、農業スマート化など男女関係なく働ける仕組み等)についてアドバイスをいただいた。</p> <p>第2回会議を11月19日(木)に開催し、ジェンダーや先進事例などの講義を受け理解を深めるとともに、ジェンダーギャップが解消された未来を実現するための具体的な事業案について意見出しを行うワークショップを実施した。田中氏には、長野県川上村の「新しいテクノロジーとジェンダー視点を取り入れた文化のスマート化」についての事例紹介や、長崎県波佐見町の焼き物、奈良県吉野町の木工製品など、若者やよそ者を受入れ、その刺激を地域に拡げ、「住民参加型から住民主体型」への変化につながった取組みなどもお示しいただき、寛容な社会(多様性&包摂)の重要性についてアドバイスをいただいた。また、グループワークでは、ファシリテーターとして委員の議論を活性化いただいた。</p>		
成果	<p>第1回会議、第2回会議のゴールとして設定していた、戦略の目指す姿と実現に向けた主要手段、具体的手段の意見出しができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップが解消された場合、されない場合のシナリオの検討 ・「ジェンダーギャップが解消された未来」の実現のために、個人、学校、家庭、地域、市などでできること ・具体的な事業案など 		
課題	<p>第1回会議、第2回会議で出された意見をもとに戦略の体系を整理し、戦略の骨子を作り上げる。</p> <p>ジェンダーギャップ解消への意識改革、行動変革を促す仕組みづくり。</p>		
今後の方針	<p>第3回会議(12/16)では、今までの会議結果を踏まえて作成した戦略の骨子をもと意見交換を行う。地域、家庭における具体的な取組みについて、さらに議論を深め地域に根差した戦略素案を取りまとめる。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	カーシェアリング導入	相談主体	京都府京丹波町
派遣伝道師	吉澤 武彦	ブロック名	近畿ブロック
相談内容	<p>本町では、高齢化率が40%を超えており、また公共交通も町内の各地域まで行き届いていない交通不便地域となっており、また、地域のコミュニティー活動の活発化が必要な地域である。そこで、他市で取り組まれているコミュニティー・カーシェアリングの導入を参考とし、令和3年4月から、本町においても、テスト運行を開始すべく、まずはこの主体づくりに向け、地域活性化伝道師に実際に現地に入っていただき、カーシェアリングについての講演をお願いした。</p>		
相談への対応内容	<p>地域の方々にカーシェアリングの導入に向け講演していただいた。講演内容としては、地域のカーシェアリング導入に向け、カーシェアリングの設立から運営方法まで講演していただいた。また質疑応答時間を設け、地域の方々からのカーシェアリングを運営するにあたっての質問に対応していただいた。地域からは、運営方法、ドライバー、まとめ役の確保からコミュニティの募集は、どのようにしているかなど幅広く質問をいただいた。</p>		
成果	<p>成果として、地域住民にカーシェアリングを運営してみようという意識付けを行うことができた。今回参加した人の中からは、将来的に免許証も自主返納を行うときが来た時、交通手段がバスだけでは、不自由なのでこのカーシェアリング制度を地域の導入できれば交通の利便性がとても良くなるとの意見もあった。将来的に交通弱者への交通手段としてカーシェアリングがあるということを地域に伝え、そして地域で導入しようという意見があり良かった。</p>		
課題	<p>カーシェアリング導入に向け、地域によっては、まとめ役、ドライバーなどの人材不足、運営にあたり資金をどのように調達するか等の課題が残った。ドライバーやまとめ役の人については、ボランティアでの参加であることと事故などを起こした時などを考えると運転手を確保するのは、難しいという意見が多かった。また京丹波町の中でも電車などの公共交通が行き届いている地域は、カーシェアリングの導入は、考えておらず導入を考えている地域においても資金面などの課題があるため、町としても一定の補助制度を行う必要があることが分かった。</p>		
今後の方針	<p>カーシェアリングの導入を行う地域に対し、補助制度の整備を行い、導入に向け派遣伝道師の吉澤氏に運営に向け必要があれば実施地域と相談会を行っていきたい。現在導入に向け、取り組まれている地域をモデル地域とし、京丹波町にカーシェアリングの取組を活性化させていきたい。</p>		